

笠盛(桐生市)

刺しゅうアクセサリー 000 トリプル・オウ

繊細な糸の風合いと驚くほどの軽さが魅力の刺しゅうアクセサリー。開発したのは桐生市にある創業140年の刺しゅうメーカー、笠盛。貴金属の輝きを放つメタリック糸やシルク素材の糸を自在に操って生まれた特殊レースで自社ブランド「000(トリプル・オウ)」を展開する。長年にわたり国内外のアパレルブランドを支えてきた「黒子」が、海外展開を視野に入れた表舞台への挑戦を始めた。



黒子から表舞台へ

伝統は革新の連続 新たな価値は ゼロから



【笠盛】創業140年、手織り織機で和装の帯を織る織物業として、1962年から刺しゅう業を始め、2006年に独自の刺しゅうアクセサリーを開発し、2010年「000(トリプル・オウ)」を立ち上げた。

「000(トリプル・オウ)」でも扱われるようになった。先は000年に立ち上げた。上高は自社全体の3割以上を占めるまで成長している。アクセサリーは、優れたデザイン性以外にも軽く金属アレルギーの心配がないと徐々に評判が広まり、都内の百貨店で展示会開かれるようになった。ECサイトのほか全国的に展開するアパレル専門店「黒子」が、海外展開を視野に入れた表舞台への挑戦を始めた。

確かな技術と豊かなアイデアが融合し、独自の刺しゅうアクセサリーが生まれる。モノづくりの伝統を桐生の街づくりに生かしたいと考える笠盛社長(左)と片倉さん

業態をシフト

「昔は職感を感じていた」と話す笠盛社長(左)は1970年代のオイルショックの不振下、家業を継いだ。後の不況下、家業を継いだ。

日本から世界へ

長年の不況で海外への生産移転が続くパレル業界。笠盛も93年、インドネシアに進出。8年後に100%子会社とした工場を設立した。000は異なる海外では、日本のようなモノづくりは難しいと感じた。

最終製品届ける

以降、欧米や中東の展示会に出展することで次第に海外でも技術が評価され、世界的なトップブランドに刺しゅうが採用されるようになった。しかし、価格交渉をはじめ取引先の事情が絡む「裏方の仕事」これからの時代は他社の下請けでは生き残れないと危機感を強めた。

「新たな苦労と出向るのは大変だが楽しい。短時間で成果が出ることはめざましい。革新を繰り返して、花開く」としている笠盛。トリプル・オウを引っさげて海外進出を図る。



「000ファクトリーショップ in 桐生」(桐生市三吉町1-3-3)▷営業日 毎月第3週の金、土曜▷営業時間 13時~18時(金)、10時~18時(土)▷☎0277-44-3358